



# OSAKA SEMBA ROTARY CLUB JAPAN

## WEEKLY REPORT

設立 昭和63年(1988)5月23日  
 事務所 〒542-0086 大阪市中央区西心斎橋1-7-3 大丸北炭屋町ビル6階  
 TEL.(06)6244-1008 FAX.(06)6244-1010  
 WEB. http://sembarotary.club E-mail: semba@cocoa.ocn.ne.jp  
 例会 毎週月曜日・12時30分・ホテル日航大阪 Tel.(06)6244-1111  
 会長 林 拓 幹事 山川良知 会報広報委員長 大島 弥生



四つのテスト／言行はこれに照してから I. 真実かどうか II. みんなに公平か III. 好意と友情を深めるか IV. みんなの為になるかどうか

### 第1528回 例会 2024年(令和6年)3月4日 (水と衛生月間)

<b>本日のプログラム</b>	(本日のプログレス 篠藤 敦子 副SAA)
○ ロ-タリ-ソング 「君が代」「四つのテスト」	
○ 会長の時間 ○ 幹事報告 ○ 委員会報告 ○ ニコニコ箱報告 ○ 出席報告	
○ 3月お誕生月会員お祝い	
○ 卓話 「和食マナーの裏に隠された先人達の知恵と職人の心使い」 裏野 由美子 様	
○ 理事会 4階「藤の間」 13:40~14:40	

前回(2月26日)例会記録

◇プログレス 岡本 茂 副SAA

- ・ひなまつり
- ・春の小川
- ・未来予想図

**1. 来客紹介** 坂本 田鶴子 親睦委員  
 ゲスト: 0名 地区外: 0名 地区内: 0名 合計 0名

**2. 会長の時間** 「河豚(フグ)」 林 拓 会長



今週はかなり冷える天気予報なので、冬の鍋といえば関西では「てっちり」、当クラブでフグといえ  
 ば中西会員。素人がフグをテーマにするなど、中西会員に怒られそうですが、本日はフグの歴史や  
 由来などをお話したいと思います。

世界にフグの種類は約100種類ほど存在し、日本近海に生息しているのは約50種、その中で食用と  
 して許可されているのが22種、さらに日本人が主に消費しているのはトラフグ、マフグ、サバフグの  
 3種で1位はトラフグとなります。まずはフグという名前の由来ですが、有力なのは中国です。

三水の河に豚と書いて河豚と読みます。中国語で「ホートゥン」と発音します。本来は海の豚じゃないの?と思ってしまう、  
 海豚は「ハイトゥン」と言って既にイルカという単語が存在したため、河豚となったようです。

また関西ではフグのことを「鉄砲」と呼びます。

これは毒に当たったら死ぬからだそうですが、この発音の由来からふぐ鍋を「てっちり」ふぐ刺しを「てっさ」と呼ぶようになります。

下関などではフグを「ふく」と読み濁らないように発音するのはフグと呼ぶと「不遇」につながり、フクと呼ぶと「福」につながるためと言われています。

フグを食す歴史は古く、古代エジプトのピラミッド近くの墳墓壁画に世界最古のフグが描かれていたり、2300年前に記された中国の「三海経」には「河豚を食べると死ぬ」との記載がありフグの毒性を指摘しています。日本では縄文時代の貝塚からフグの骨が出土しています。また姥山貝塚の住居跡からは住人5人全員がなんらかの急病で同時に死んだような遺骨がフグの骨と一緒に出土していることから、フグを食べて中毒死したと考えられています。安土桃山時代には豊臣秀吉が朝鮮出兵した際にフグを食して死亡する兵士が続出したため、1598年に「フグ食禁止の令」を發布し、その後徳川政権に代わってからも、「主君に捧げるべき命を己の食い意地で命を落とした輩」は「家名断絶」「家禄没収」などの厳しい罰に処せられたそうです。明治5年東京日日新聞に「ふぐ食を禁じるべき」との投書が掲載されて、10年後の明治15年には全国的にフグの販売が禁止され、食した者は拘置などの処置を下したそうです。ところが明治21年伊藤博文が下関の春帆楼に宿泊した折、時化で魚がなく仕方なく出したフグの味に感嘆し、山口県令に呼びかけ、山口県ではフグ食解禁となります。春帆楼はふく料理公許第一号店となりました。明治25年には内蔵を取除くことを条件として東京都でも解禁となり全国に広がります。

この美味しいフグですが、特に天然物にはテトロドトキシンという毒素を持っています。青酸カリ1000倍の殺傷能力があり、この毒は水にも溶けず、300℃でも分解しないため、普通の調理では毒素がなくなることはない上、解毒方法がないため死亡確率は高い。フグが毒を持つ理由は有毒プランクトンなど微量のテトロドトキシンを持った生物を食べた貝類やヒトデなどを食べたフグがその体内に蓄積するという食物連鎖が原因です。ではなぜフグはテトロドトキシンを持った生物を食べても中毒を起こさないのか？を説明していると時間が無くなりますので、本日はこの辺りで。

#### 4. ニュニコ報告 大島 弥生 親睦委員

伊藤 会員……本日国際奉仕のクラブフォーラムです。よろしくお願ひします。

小島 会員……今日は73才の誕生日で孫からメガネ柄のネクタイと靴下をもらいました。

新川、坂本、片岡、清水、中井、井澤、大久保、岡野、大島、俣野、中嶋、小山、山川、篠藤、宮原、大嶋、松村、野田、岡本(真)、原山、

各会員……スギ花粉飛散 今年は早くも本番！花粉症の方、しっかり対策を～

#### 5. 出席報告 岡本 茂 副SAA

会員総数 38名 出席率計算会員数 37名 出席会員数 31名(オンライン4名) 出席率 84%

第1523回(1月29日) 修正出席率 100%

#### 6. クラブフォーラム

◎ 国際奉仕委員会 伊藤 清一 委員長



今回のパリ・シンガポール旅行、国際奉仕委員長の私为中心になって準備しないといけないところ、林会長・山川幹事そして岡本信太郎エレクトの三人の方が私の代わりにすべてをしていただき、私はただ参加するだけという大変な旅行をさせていただきました。林会長・山川幹事・岡本エレクトには改めて感謝申し上げます。今回は13人という多くの会員が参加していただきました。そのうち7人に海外での奉仕活動に初めて参加していただきました。

船場RCの国際奉仕活動としては今5つのプロジェクトがあります。

①澤田先生のバヌアツ・フィリピンでの歯科医療奉仕、②シンガポールRCとの交流、③バリ島での小学校に対する支援活動、④30周年記念で設立をしたカンボジアの小学校のその後の維持、⑤ウガンダでの水資源の5つです。

本来私が林会長から国際奉仕委員長を指名いただいた役割は私が会長をした2017年度の30周年事業の一つであったカンボジア、タサエン地区に作った小学校のその後のフォローを考えるということでした。そして昨年の6月、現地ですべてを希望しているNPO法人国際地雷処理・地域復興支援の会の高山良二さんと大阪でミーティングをしたが高山さんの思いと私たちの思いが少しずれているような感じを持ち、カンボジアでの活動を今年度の活動の目玉にすることはやめることにした。

高山さんとの話の中で感じたことは、1つ目はカンボジアでの高山さんの組織を窓口にするプロジェクトが船場RCだけでなくいくつかあり、日本からの私たちの奉仕の有難みが薄まってきていること。2つ目は現地サイドで対応する人材が育っていないということ。そういう理由でカンボジアでの地雷処理はライフワークとしては依然として続けておられますが、高山さん自身の限界を悟り始めているように思いました。

その中で高山さんが一番力を入れておられることは、現地で栽培しているタピオカの原料となるキャッサバを使った焼酎を、ブランド化して海外に輸出することで地元の産業を発展させること。バリのクラママスターという日本酒の展示会に出展して、焼酎の部門で出展した4つの焼酎、バナナの焼酎・キャッサバの焼酎・マンゴーの焼酎が表彰され、さらに今年はロンドンの展示会にも参加される予定で、今の高山さんは地元で作る焼酎を、各地のコンクールで入賞して日本をはじめ海外に売っていきたい、ということが最大の関心事のように思う。酒が売れることによって地元の村が潤うことが出来れば一番の地域貢献になる。

とにかく支援して欲しい、というのが高山さんの本音ですが、その金が展示会の費用に充てられるのか、地雷撤去に使われるのか、小学校の維持に使われるのか正直見えない。どうあれ地元が潤っていけばよいとは思いますが、高山さんまたは船場小学校の名をつけた小学校に対して今後どのように付き合いしていくことが良いのか国際奉仕として改めて検討していきたいと思えます。

今までの奉仕活動は、例えばこれまでバリで行ってきた小学校のトイレや洗面所を寄付するという奉仕活動でしたが、これからの奉仕活動は、今話題のサステナブルな、持続可能な社会の実現という観点から考えれば支援先が毎年お金をもらうということではなく、自立できる方策を考えてもらう。塩尻会員が進めてこられたウガンダでの、料金を徴収することで井戸の継続的維持管理をしていくという井戸管理システムはまさしくサステナブルな奉仕活動のひとつだと思います。そしてカンボジアの高山さんが目指しておられる、地元での焼酎を販売することによって地元が潤うというスキームは究極のサステナブルの支援活動かもしれません。

船場RCの国際奉仕活動といえば設立時から澤田先生のバヌアツでの歯科医療奉仕、というイメージがメンバーにおいても定着し、また国際ロータリーにおいても認知されてきました。ただ澤田先生がバヌアツでの歯科医療の奉仕活動に対して、私たちは寄付をするから活動そのものは澤田先生にまかしておけばよい、という安易な考え方があったのも事実かと思えます。バヌアツ、フィリピンに対しての歯科医療活動に対する寄付は、船場RC設立2年後の1989年から始まりほぼ毎年50万円、そしてクリスマスパーティーにおけるオークションで20万円と合計70万円を支払いしてきました。

澤田先生の活動は当初は歯科医療から始まっていますが、八尾の小学生徒とバヌアツの小学生の絵画を通じての交流など青少年奉仕の活動を巻き込むようになり、さらに最近では社会に溶け込みにくい若者が多く見かけるようになっていますが、そういった若者を海外に連れていき、体験させることによって若者の自立を促進させる活動もされ、当初の歯科医療だけの奉仕活動から大きく変身しつつあります。

澤田先生の目指しておられる国際奉仕を核にした奉仕活動は、これからのロータリークラブの奉仕活動のさきがけとなっていくように思っています。4月16日のロータリーデーでは「メンタルヘルスと奉仕活動」というテーマのもと澤田先生が「国際奉仕活動と青少年育成」という題名で講演されますが、船場RCにとって澤田先生の活動は財産だと思います。今回の旅行はバリ島を訪問したあとシンガポールに訪問しました。例会に出席することが目的であったが、残念ながら例会が取りやめになったということでメンバーの方の自宅でのパーティーに参加しました。シンガポールRCとは設立して9年後の1996年に姉妹クラブとして提携をしました。船場RCのチャーターメンバーで残念ながら数年前に亡くなられた斧原会員がシンガポールRCの石崎さんとお知り合いであったことがきっかけで、姉妹クラブとして締結しました。

5年ほど前に退会され、その後シンガポールに移住された長沼さんが、塩尻会員が誘われてこのパーティーに参加され、久しぶりにシンガポールで再開しました。聞くところによるとシンガポールRCに入会手続きをされており、近々正式に入会されるように聞いております。長沼さんが入会されると、今まで以上にシンガポールRCとの交流が進んでいくのではと思います。

さて今日の本題のバリ島でのプロジェクトですが、岡本真太郎会員が入会前からすでにバリ島で個人的に4人の里親として援助されておられた、ということがきっかけで、2014年9月、小島会長の時代に、タマンRCのイスカンダール万亀子さんを窓口にして家庭の事情で進級試験を受けることが出来ない優秀な学生に対して学費を支援してあげるといふ支援活動が正式に始まりました。3年後からは学費の支援からトイレと手洗い場の設置の支援に代わり、今に続いています。

そして今回が6回目のバリ島への支援活動となります。

先週の林会長の話に合ったように、タマンRCでもシンガポールRCでも船場RCの出席率が95%と非常に高いことが話題になりましたが、一方でタマンRCで年間のプロジェクトは5-60件あるということで、皆さんが積極的に活動をされていることに大変感銘を受けました。

今回の旅行については広報委員長の大島会員が完璧な報告書を作ってもらいましたので、大島会員をお願いします。旅行中、飛行機が延着してシンガポール空港に到着が深夜となりホテルにチェックインするのが夜中の2時過ぎになったり、入国時に税関で引っかかるなど多少トラブルがありましたが、4泊5日の大変楽しく、そして有意義な国際奉仕活動、そして青少年奉仕活動を行うことが出来ました。参加いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。

クラブ理念:わたしたちは人類社会の共栄を願い、高い感性をもって  
奉仕活動につとめ、社会の発展と平和に貢献します

クラブビジョン:多様性を認め合い、会員一人一人の心が豊かになる  
魅力あるクラブを目指す

☆次回3月11日(月)例会予定

・卓話:原山会員

・クラブ協議会(中間) 4階「藤の間」 13:40~15:40